

自己評価および外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示し、それを念頭に置いて日々のケアにあたるよう、指導・実践をしている	職員は会社の基本理念が浸透した中で日々のケアに邁進している。しかし、現在、事業所の理念については管理者と職員による共有した振り返りが確認されてない様子も窺えた。共有された統一した認識がなされていないと会社の基本理念から離れて解釈されてしまう恐れもある。しかし、今後は事業所理念を職員と共に話し合い取り組んでいく強い決意があるとのことである。強く期待される。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつきあいがコロナ禍により減少している。感染予防と並行して行っていく方法を模索している。	回覧板が届くと石上地区の情報を利用者に伝えている。事業所の花壇と畑は三条市のシルバー人材センターから応援してもらい、野菜の成長を楽しんだり、収穫の喜びを味わっている。認知症カフェ「おひさま喫茶」ではカフェ座談会を外部の公民館や文化会館を会場に繋がりをもてるよう開催されている。また、近くを散歩したり、事業所前の道路を通学する子供の姿も見られるなど、近隣に住む人たちとふれあう機会は多くなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域と自治体との要望について話し合いを行っている。又認知症カフェなど、在宅介護者らに向けた取り組みも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にスタッフも参加することで、内容について意見などももらった場合積極的に反映できるようにしている。	運営推進会議はコロナ禍で中止になることもあるが、会議年間計画により今年は2月に開催されたとのこと。参加者は包括職員、家族、管理者、職員1名と限られたメンバーではあるが、事業所の現状の報告や包括職員と地域の情報交換を行い、それをサービス向上に結び付けていけるよう取り組んでいる。	運営推進会議は、外部の目を通して事業所の取り組み内容や課題について話し合い、意見をサービス向上に活かしていく機会でもある。出席されない家族へも会議録を配布すること、貴重な家族意見等を真摯に受け入れ工夫、改善することで、今まで以上の事業所理解に繋げる取り組みに期待したい。
		市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時報告・相談・指導などをいただいております。また毎月の広報誌送付なども行っている。その他、家族介護支援事業などにおいても、互いに協力し取り組んでいる。	包括職員が運営推進会議にメンバーとして参加しており、事業所の現状を把握している。市の事業である「認知症カフェ」の取り組み等においても、お互いの協力体制が築かれている。行政の広報誌にはお困り方はいつでも相談しますという相談窓口を用意したり、毎月、市に会社の広報誌を送付し連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除く一切の施錠を行わないようにしている。また、拘束とまでいかないが、活動や発言を抑制してしまうようなことが無いが、指導している。	会社の内部研修に参加した資料等を事業所内に研修内容を共有化し、ユニット会議では、その資料を配布して研修を行っている。管理者も随時現場に入り、気になる言葉遣いなどはその場で注意指導をしている。家族の了承を得た上で、数名の利用者は安全のため、センサーを使用した見守りを行っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての知識を職員に伝達、確認してもらい、各自で意識して虐待防止に努める為に事業所内研修も行っている。	事業所内部研修を実施しユニット会議で話し合いが行われている。利用者の身体的な異常と精神的な動揺等はないかを確認しながら暮らしの支援をしている。また、職員の疲労やストレスがないか、個人に負担がかかりすぎていないかなど声を掛け目配りすることで防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人がついているご利用者がおり、職員間での理解も広がってきているが、活用や連携についての実績はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・利用契約書については十分な時間をかけて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置とともに、普段から家族が意見や要望を言いやすい環境作りに努めている。現況報告をし、要望があった時は検討し「出来ること」は即実行している。	利用者の声を丁寧に拾いケース記録に残し、日常生活に反映できるように支援している。家族とは電話や面会時に意見等がある場合は検討し工夫するよう取り組んでいる。また、外部評価アンケートでの事業所に改善して欲しい点等についても出来ることから実行され運営に反映されるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や個別での面談を行い、定期・不定期に聞く機会を設けている。	全体会議は行われていないが、職員会議は毎月各ユニット会議で開かれており、意見交換等を職員が発言しやすい雰囲気になるよう促しや声掛けに配慮している。日々の職員の表情を伺って個別に面談を行うこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の目標設定と管理などにより、能力や実績の判定などを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については社内での年間計画を基に、内部・外部研修を多く取り組む機会があり、社員のスキルアップを惜しまず会社ぐるみで実施している。又それ以外でも事業所独自の勉強も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に地域内や他の市町村でも、ホームへの見学や研修などの場における交流を進めるように働きかけている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式シートの活用や家族からの情報収集などで本人が安心して暮らせるように本人本位の支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には細かく、本人、家族を含めて要望等を伺い、悩み等に関して、可能な限り力になれるよう関係性を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が何を必要としているのか細かに聞き取りを行い、他のサービスを取り入れる必要のある時は、家族と話し理解を深めて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	決まった人になってはいるが、調理など一緒に取り組んでいる。また、畑や庭の植木などの手入れにおいては、いろいろな意見を聞いたり、触れ合える機会を設けている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに現状についての報告や、何かあったときの相談もしながら、利用者本人を共に支えていくようにしている。認知症カフェにも参加してもらい、本音を言える環境を整えている。	受診は家族のスケジュール調整によって対応したり、月1回の往診を受けたり、内容によっては家族も同行する場合もある。状況に応じて電話等で連絡を取っている。受け持ち担当者は3ヶ月毎に利用者の生活の様子や事業所での写真を送付し、本人を身近に感じてもらえるようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人を迎え入れる機会が持てるよう努めている。	親戚の方、知人、友人の方との関係が途切れないよう、玄関先の風通しのよい場所での面会を行っている。お盆期間の外出は家族と一緒に過ごす時間を大切に支援している。また、以前から交流のある馴染みの美容院から来所してもらうことが、利用者の希望するヘアカットに繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同一フロア内だけでなく、フロアを超え、新たに利用者同士に絆が生まれるように関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要のある場合はお便りや電話などによる連絡を行って、継続的なつながりを維持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者のグループホームでの生活で大切にしたいこと、思いの把握を日々の生活の中で見出せるよう努めている。	入居時に家族からもセンター方式のアセスメント様式に記載を依頼し、できるだけ多くの情報を収集して職員間で共有している。そのうえで事業所として個別介護焦点情報を作成し、利用者の声を大切に捉え思いや意向の把握に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みのあるものの把握をご本人、ご家族、関係者から情報収集に努めている。	入居前に自宅を訪問したり、社会や家庭での役割とサービス利用の経過等の把握を行い、これまでの暮らしが継続できるよう支援している。シーツ交換、掃除、調理等を行ったり、毎週購入して読んでいる雑誌を職員と一緒に出かけ求めたりする利用者も居られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを行うことで支援が必要な生活行為の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成段階や作成後にスタッフやご家族との話し合いを行って、必要であれば手直しを加えてサービスの実施をしている。	日々、利用者本人が行っていること、できていることを各自の生活記録に記載し、計画作成者や居室担当が本人・家族の意向や課題をふまえて入所時のアセスメントから定期的にモニタリングして見直している。担当者が他職員にも聞き取りし、そしてモニタリングを行い、半年ごとに課題評価を実施して介護サービス計画書を作成し、家族にも説明して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の様子やケアの経過から、背景や影響しているものの検討を行い、職員間で共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や通院時の福祉タクシー利用のサポート、看護体制の必要な場合の、訪問看護サービスの併用も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源とのつながりが希薄になり、ご家族以外との交流が図れていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者やご家族の希望に沿った医療が受けられるよう調整し、また協力医との連絡を密に行っている。	本人・家族が希望するかかりつけ医があれば受診支援している。協力医院を主治医にする方には、職員が同行して毎月一回受診し薬局から薬の配達がされる。体調不良などの時は状態をfaxで連絡し往診してもらうこともある。週一回の訪問看護師から健康管理、24時間対応のオンライン、専門医への受診の助言など適切な医療が受けられるように連携を図っている。希望する方には訪問歯科にも随時診てもらい、家族にも報告し連絡を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護を受けられ、24時間体制で電話での相談ができ、適宜連携を図って支援にあてている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や入院医療機関の担当主治医、相談員などとの連携を密にして、相談対応を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のお看取りについて、家族、医師と現状と今後について話し合い、可能な場合に実施する事ができている。	入居契約時に「重度化対応、終末期ケア対応方針」について、本人・家族に事業所として出来る事、出来ない事の説明を行っている。看取りケアの経験もあり、主治医・看護師・職員と連携を図り、本人・家族の気持ちに寄り添いながら、全職員で情報を共有し看取りケアを行っている。状態によっては病院や他施設へ情報提供し支援に繋げている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応に戸惑わず準備ができるよう実践力を養っている。誰でもできるように書式を変更した。	救急対策のマニュアルが整備され書式を見直し、分かりやすくなっている。急変時や事故発生時に備えておりAEDの設置や使い方、救急車の呼び方、家族への連絡先、報告の仕方などがフロアの分かりやすい所に設置されている。新入職員にも指導している。日常的に起こりうる事故や急変時には24時間対応の看護師と連絡を密に取っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施を行っている。地域との協力体制について、整備がすまない状況にある。	事業所内で年2回避難訓練を実施するとともに、年1回電気系統の点検を実施し停電時に備えている。マニュアルを作成し、水やランタン、カセットコンロなども備蓄している。現状、残念ながら地域住民の参加や地域との避難訓練については中々整備が進んでいない状況とのことである。	今後は避難訓練のマニュアルの整備、実施記録の保管や備蓄品のリストなどきちんと整備されることが望まれる。また、非常口の周辺・扉の外側など、物が多く危険も予測されるので整備し非常時に避難しやすいようにすることを望みたい。加えて、事業所は一階と二階があるので地域とも引き続き協力体制を取り災害に備える体制への取り組みが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者にとって親しみを感じられ、かつ自尊心を保たれるような呼び方、話掛けを行っている。	一人ひとりに合った言葉かけに配慮しながら親しみも感じられ、良好な関係が築けるように丁寧な対応を心掛けている。日常生活の中の場面ごとに相応しい声かけを行っている。日々の記録や情報管理も配慮し責任ある取り扱いを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人がその時々で気持ちを話せる機会を持てるよう職員が関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴などの生活支援には一人ひとりのペースを尊重した働きかけを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみが気になるご利用者には気に入った服装ができるように、頓着がないご利用者には整った服装ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ感染対策と並行して行っているが、可能な限りご利用者と食事を楽しめる雰囲気づくりと支援を行っている。	感染対策を取った上で、出来る方は楽しみながら一緒に調理したり、配膳や洗い物など無理強いせず出来る事を分担している。毎日の献立はチラシやテレビなどで好みや食べたい物を選んでもらったり、要望を聞き買い物をしたり、その日にある材料や食べたい物を聞いて調理している。誕生日や行事の時は好みの物や季節のメニューを工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事や水分の摂取量を把握できるよう取り組み、適切な摂取量が達成できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者に応じた場所、機会、支援方法で口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の自尊心を損ねないように排泄支援を検討し、残存能力を生かしたケアを行っている。	利用者一人ひとりの生活習慣や排泄パターンを把握しつつ声かけを工夫し、トイレで排泄できるように支援に努めている。トイレは3ヶ所あり車椅子の方もいるが身体機能を理解しての排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に努め、運動不足や便秘による体調不良が予測される場合には処方薬で対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の入浴への意向を踏まえつつ、無理のない方法での入浴支援を実施している。	利用者の希望を伺い、午前中から夕方までの間で週2回は入浴できるようにしている。拒否がある方は無理強いせずに工夫して対応し、入浴チェック表をつけて入浴できるように支援し同性介助となっている。立位不安定な方は必要時シャワーチェアを使い、手すりや補助具も整備され安全に入浴出来るようにしている。シャンプー、リンスなどは個人の名前を付け、お気に入りの物を使ってもらっている。可能な方は着替えの準備を一緒にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜の睡眠を損ねない程度の休息がとれるよう必要なご利用者には支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬、外用薬について内容を職員の身近にファイルしており、いつでも確認できるようにしている。また、必要に応じてカンファレンスなどにも取り上げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯、食事の準備など、能力に合わせた役割がある程度機能している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑や玄関脇の花壇など、天候や気分に合わせてできる限りの支援をしている。外出レクリエーションだけでなく、家族との外出時にも必要な情報の提供や準備に対応して、気軽に出かけられるように配慮している。	日常的に屋外に出かけたり、玄関脇の花壇や施設横の畑など、外の空気に触れ気分転換に努めている。玄関の掃除をしたり、駐車場内のゴミステーションにゴミ出しをしている。季節ごとの行事や天気の良い時などはドライブを計画したり、希望により定期的に雑誌を購入するために外出支援をしている方も居られる。家族にも受診外出を依頼しているが、現在外食は控えてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個室内で金銭を置くことのできる方は限られており、必要に応じて使用することができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話の機会を持てるようにしており、要望に応じた対応が来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる飾り付けを行っている。ソファやいすなども様々な場所に配置し、好きな場所でくつろげるようにしている。	事業所では入口の施錠はしていないがチャイムが鳴ることで出入りが確認がなされている。2階へはエレベーターがあり階段も広い作りである。フロアの共有空間は広くて窓からも日差しが差し込まれ明るい環境である。フロア内には利用者との行事や日頃の様子の写真が装飾され楽しんでいる日々の過ごしている様子が伺える。所々にソファや椅子が置かれており、好きな場所で寛げるようにしている。施設内、トイレ内も体感温度に合わせて温度調節がされている。加湿器なども設置され、目配り気配りされており安心して生活できる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったり座れるソファや、手作業の出来るスペースであったり、思いおもいに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限りなじみの品物を用意していたくように、入居前から家族には伝えてある。しかしながら、状況や本人の状態から難しいケースもある。	居室にはベッド・押し入れ・洗面台の他、テレビ・ソファ・タンス・寝具など個人の馴染みの物を持ち込んでもらっている。部屋には好みの物や絵・写真などを飾り、居心地の良い空間にしている。部屋の掃除は基本職員が行っているが、出来る方には出来る範囲でしてもらい、能力を維持し自立した生活が送れるように支援している。車椅子の方などの導線を確保し生活空間を広くして動きやすい工夫をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に環境面に危険はないかチェックするとともに、利用者の活動しやすい環境を整え対応している。		